

【学校の教育目標】 知・徳・体・地の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成

4段階評価 4期待以上（75%～100%） 3はば期待どおり（50%～74%） 2やや期待を下回る（25%～49%） 1改善を要する（0%～24%）

評価項目	評価指標	具体的数値目標と達成状況	方策・手立て	各評価（令和6年度）				各評価（令和7年度）				自己評価 総合	結果の考察・分析及び改善策等	評価員 コメント	
				教師	生徒	保護者	指標別	教師	生徒	保護者	指標別				
1	確かな学力の育成	「わかる・できる」授業の構築	生徒・保護者・職員の授業評価結果3以上	○「みまたんモデル」・「ひなたの学び」の推進 ○主題研に係る一人一授業とICT教育の推進 ○学校訪問を通じた授業力向上	3.0	3.4	3.3	3.2	3.1	3.4	3.3	3.3	○「わかる・できる」授業の構築について、生徒(3.4)や保護者(3.3)からの評価は目標値の3を超えている。校内の主題研究として、個別最適な学びの実現に向けた学習指導法～「ひなたの学び」に基づいた授業実践を通しての研究に取り組み、支援校訪問や各教科研究授業を通して研究を行った。 ○「家庭学習の充実」(指標別2.3)と、低い評価となった。タブレットの持ち帰りやAIDリルなどの活用について、学習の手引きの内容を改定し、より具体化・簡略化し、保護者もサポートしやすい形へ改善していくことで、家庭教育の充実を図る。 ○「読書活動の推進と読書量アップ」(指標別2.1)となった。読書量向上に向け、文化図書委員会から、町図書館と連携し学級図書設置の案が出ている。生徒会と図書支援員とも連携を図り、図書館利用の充実やひなた電子図書の利用法などに取り組み読書量を確保させた。	3	「みまたんモデル」や「ひなたの学び」を通じた、主体的な学びを促す授業改善を試み「わかった」「授業が面白い」と実感できるものにして欲しい。ICTの活用が進む一方で、「タブレットとノート(手書き)のバランス」を考慮し、実際に書くことで知識を定着させる視点も重要。家庭学習の充実については、AIDリルの活用も含め、学校と家庭が連携して学習習慣を確立させるためのさらなる工夫を期待。また、読書活動については、電子図書活用や、生徒が読みたくなる本を自ら選ぶ環境づくり(ブックハンティング、ピブリック)など、「本に親しむ仕掛け」を継続して推進して欲しい。
		家庭学習の充実	学力・実力テストの結果地区・県平均以上	○「家庭学習の手引き」の周知と活用 ○復習課題の工夫・宅習時間の確保	2.0	2.6	2.2	2.3	2.0	2.7	2.2	2.3			
		読書活動の推進と読書量アップ	読書冊数一人年間20冊	○図書室からの広報活動の実施	2.2	2.4	2.1	2.2	2.1	2.3	2.0	2.1			
2	心の教育の充実	文教のまち三股の伝統教育の推進	保護者・生徒・教員のアンケート結果3以上	○あいさつ・校門での一礼の実施 ○無言清掃の実施 ○自主的・自発的な生徒会活動の活性化	3.1	3.4	3.2	3.2	3.1	3.4	3.2	3.1	○伝統教育である、あいさつ、校門一礼、無言清掃などの取り組みは、生徒(3.4)からの評価が高い。献身的な生徒会活動の積み重ねの結果であると考え。わが校の伝統を誇りとして生徒が感じられるよう、生徒の主体性のある活動を今後も支援していきたい。 ○「いじめ防止対策・不登校生徒などへの対応」について、生徒の事情に寄り添った対応が求められる。本年度、SSR(校内適応指導教室)を開設し、関係機関と連携しながら対応しており、不登校生徒の学級復帰につながった。今後も生徒の状況を全教職員で正確に共有し、支援していく体制を充実させていく。 ○「思いやりの心の育成」言語環境の整備については、本年度も引き続き相手の立場に立った言動ができるよう、生徒会を中心に「サツキ言葉」の取り組みを行っている。今後も人権教育・道徳教育をとおして人権感覚を磨き、言語環境及び言語活動の充実を図る。	3	挨拶や校門での一礼、無言清掃といった伝統が、生徒の自主的な活動として定着している点は素晴らしい。校内で取り組まれている「サツキ言葉」については、学校内にとどめず、地域全体へ発信することで「町の言葉」として広げて欲しい。また、文部科学省が推進する「学びの多様化」において、SSR(校内適応指導教室)の設置は、不登校生徒の居場所づくりとして大きな成果を上げており、今後も関係機関と連携したきめ細かな支援体制を維持・発展させて欲しい。思いやりの心を育成することは、言語環境の改善や情報モラル自転車等の交通ルールを順守する心を育てる1つの要素となりうるものと考え。
		いじめ防止対策・不登校生徒等への対応	不登校率3.5%以下	○いじめ防止基本方針の定着 ○月に1度のいじめアンケートの実施 ○教育相談アンケートと相談の充実	/	/	/	/	/	/	/	/			
		思いやりの心の育成	保護者・生徒のアンケート結果3以上	○合理的な配慮を考慮した特別支援教育の充実 ○全教育活動を通じた道徳教育・人権教育の充実 ○言語環境の整備と言語活動の充実	2.7	3.3	3.3	3.1	2.8	3.3	3.3	3.2			
3	健康安全と体力の向上	交通安全指導や安全点検の徹底	保護者・生徒・職員のアンケート結果3以上	○通学路の安全確認・登下校指導 ○安全点検や授業、部活動でのケガ予防	2.0	3.8	3.1	2.9	2.1	3.6	3.2	3.0	○交通安全に関する教師の評価は低い状況で、懸念している。保護者・地域からも、自転車の並進や左側通行の不徹底など、具体的な危険箇所や苦情が多数寄せられており、事故への不安が極めて高い。道路交通法改定に伴い、更なる交通安全指導を実施していく。また、家庭と連携した自転車マナーの再徹底を行っていく。 ○SNS利用について、生徒の自己評価(3.8)は非常に高いものの、教師の評価は低い状況である。情報モラル教育について、機器の利用だけではなく、人権についても深く考えさせていきたい。また、生徒ばかりでなく、保護者への啓発も、家庭教育学級や保健だよりなどで行っていききたい。 ○弁当の日の取り組みは、生徒、教師に根付いており、よかもんイベントでの販売など地域と連携した取り組みに成長している。また、授業開始時における立腰の意識づけや体育の準備運動など、健康意識や体力の向上について成果が出ている。	3	交通安全、特に自転車のマナー向上(並進の禁止やヘルメットの着用など)は依然として大きな課題である。事故を未然に防ぐためにも、地域の方々の声を真摯に受け止め、家庭と連携した取り組みが必要である。あらゆる場面と機会を通して、「自分の命は自分で守る」「自転車も車と同じである」など根気強く繰り返し指導をお願いしたい。SNSの利用に関しては、生徒の自己評価と教師の認識に乖離があるため、情報モラル教育のさらなる充実が必要である。一方で、「弁当の日」などの食育活動が地域と連携した取り組みへと成長している。是非継続していただきたい。
		危機管理意識の高揚	保護者・生徒のアンケート結果3以上	○予告なしの避難訓練の実施・防災教育の実施 ○SNS普及の対応と、情報モラル教育の充実 ○感染症対策等の充実	2.4	3.9	3.3	3.2	2.6	3.8	3.4	3.3			
		主体的な体力向上や健康意識の育成	保護者・生徒・職員のアンケート結果3以上	○立腰指導 ○栄養教諭と連携した「弁当の日」の実施 ○部活動における休養日の推進	3.1	3.3	3.0	3.1	3.0	3.4	3.0	3.1			
4	家庭・地域との連携	地域と共にある学校づくり	保護者・職員からの評価3以上	○学校ホームページの内容充実 ○各種通信などによる情報提供の充実	3.2	/	3.3	3.2	3.3	/	3.3	3.3	○地域と共にある学校づくりは、関係機関から多くの協力を得られている。放課後学習支援やまちづくり協議会など地域とともに活動する場が整備されてきた。 ○校長室通信やホームページについては、保護者(3.3)から高い評価を得ている。しかし、プリントが生徒から保護者へ届いていないケースも多い。デジタルの配信にも力を入れ、情報の共有を図っていききたい。 ○「あんしんメール」を活用し、保護者の利便性を考慮し、情報をより早期に配信するよう徹底していく。また、小さな出来事でも迅速に家庭へ連絡し、保護者が相談しやすい信頼関係を構築していく。	3	ホームページやデジタルを活用した迅速な情報発信が充実している。一方で、一部の通信の更新状況を確認し、常に新しい情報が保護者に届くよう努めて欲しい。地域の行事やボランティア活動への生徒の参加については、地区に限定せず全校生徒から募集するなど、生徒が地域で活躍できる場を柔軟に提供していくことで、地域との結びつきがより強固なものになると期待している。
		家庭・地域との信頼関係の構築	保護者・職員のアンケート結果3以上	○魅力ある学校参観日の計画と運営 ○「あんしんメール」の登録推進と内容充実 ○保護者等と学校の連絡体制の確立	3.3	2.4	3.2	3.0	3.4	2.5	3.1	3.0			